

## 0. はじめに

まず改めて、地区補助金奨学生として選んでいただいたこと、お礼申し上げます。またいつも暖かい配慮をありがとうございます。

留学先で現地の方と関われることもうれしく、ありがたく思っています。

下の写真はロックダウン前に同じコースの友人（中国）と行ったエジンバラ城です。



## 1. 学業面での成果

今学期受けていたのは①大気の授業②土壌の授業③研究スキル向上のための授業です。どの授業も9月25日から始まり、12月半ばには試験・課題の提出を終えました。成績はまだ発表されていません。

コロナの影響で教室に集まって授業を受けることはほとんどしませんでした。在籍中のエジンバラ大学にはもともと二種類の授業があります。一つが日本でもなじみ深いいわゆる一人の先生の授業を大勢の生徒が聴講するもの、もう一つが聴講した授業の内容に対して生徒が先生に質問したり、生徒同士で議論をしたりして理解を深めるチュートリアル形式のものです。一つ目の講義の多くはあらかじめ録画されたものを各自視聴し、オンラインでチュートリアルを開く授業の形態が多かったです。

それでも週に一度は修士論文について人数を決めて集まって話し合ったり、小さな討論会を開いたりしていました。校舎に入る前には事前登録が必要で、入るときにはチェックインをしなければなりません。椅子は写真のように分厚いビニールがかけられており、机同士の間隔が広がるように置かれています。



同じコースの学生は40人弱で、半分以上中国（香港、マカオ、台湾含む）出身、他は大英帝国・アメリカ・オーストリア・イタリア・ノルウェー出身の学生がいます。11月に到着したためまだ全員と話せてはいませんが、面白いバックグラウンドを持っている生徒が多いという印象を受けました。学部生の頃は心理学を学んで、社会人経験を経た後、心理学の観点から気候変動の問題に取り組めないかと院への進学を決意した人が中でも印象的でした。

#### ① 大気の授業について

気候変動の現状、大気が汚染される理由、各国の取り組みを中心に幅広く学習しました。大気中の炭素の循環、メタン排出量とその測定方法、大気汚染とその影響、大気の組成が変わることに対するその他の環境への影響、現在大気中の二酸化炭素を取り除くために用いられている技術など、日々最新の情報に触れています。成績評価は自分で自由にテーマを決めて取り組んだエッセイ(37.5%)、エッセイをもとにした10分のプレゼン(12.5%)、試験(50%)です。プレゼン発表は録画したものを提出するか数名の学生と先生の前で発表するか選ぶことができたので、先生にお願いして直接発表することにしました。チリ共和国での大気汚染とコロナの関係について発表したところ”quite original and very interest topic”と褒めていただきました。

#### ② 土壌の授業について

土を構成するもの、土の役割、持続可能な農業のためにできることなどについて学びました。成績はまだ出ていませんがエッセイ(40%)、エッセイの内容のプレゼン(10%)、試験(50%)です。

エッセイでサブサハラ以南アフリカで行われている違法採鉱とその土壌への影響を調べたところ、多くのクラスメイトから興味を持ってもらいました。こちらのプレゼンはオンラインで発表する形でした。”very interest topic”とのコメントをいただきました。

#### ③ 研究スキル向上のための授業について

主にRStudioというソフトを用いた統計・解析の授業です。週に3時間の授業でしたが量が多くついていくのが大変でした。授業の内容は今後の研究や将来の仕事の即戦力になると思われる内容なので、気が抜

けません。休暇中かつロックダウン中にしっかり復習しておきたいです。この授業は年間を通して行われる授業なので、成績が出るのはまだ先のことです。

## 2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

コロナの影響でなかなか交流が難しいです。

実際に会うことが難しいためオンラインで開かれる会議には積極的に参加しました。ダンバーロータリークラブのミーティングに加えて、Portobello地区のミーティング、グローバル補助金奨学生が中心の会議にも参加させていただきました。また先日はエジンバラ全体のクリスマス会に招待していただきました。各ミーティングで日本の歴史や文字について説明したり、各国のクリスマスの過ごし方について情報を交換したりしました。

日本では1月1日が一番重要な日だ、という、スコットランドでも1月1日は大事な日で、1日と2日は祝日だということを教えていただきました。大みそかからお正月の朝、あるいは数日間Hogmany というお祭りが催されることも知りました。もともとクリスマスよりも重要なイベントだったと聞き、同じ大英国内でも祝日や伝統がこうも異なるものなのかと、大変興味深いものでした。

## 3. 直面した課題、問題点等

9月、10月の間は日本にいて、国内からオンライン授業に参加していたため、時差に苦労しました。少し長引くと朝の3時まで授業があることもありました。

11月に到着した当初はこちらの生活に慣れること、またこの時期に丁度提出物の期限が迫っていたので時間配分に苦労しました。また、コロナのためにコースメイトと直接会える機会が少なく初めは友達ができるか心配でした。皆さんとても親切ですし、寮のキッチンシェアしているフラットメイトとも打ち解けることができました。ロックダウンの前にコースメイトとエジンバラ城を回り、規制が厳しくないうちにフラットメイトたちと各国の料理を作りあって食べるなどして楽しんでいました。私はたこ焼きを作りました。下の写真がその時のものです。当時の集会人数の制限6人に対して8人いますが、この時たまたま人数が多かっただけです。ご容赦ください。(メキシコ人4人、日本人(私、手前)、中国人、アメリカ人、ギリシア人それぞれ1人)



問題点は、強いアクセントがあるメキシコ人フラットメイトとその友人との会話です。イギリス人やアメリカ人の話す英語は、ドラマやラジオなどを聞けば練習できるのですが、強いアクセントの英語に慣れる機会がなかなかありません。第二外国語として英語を話す人とのやり取りは時として難しい場合があることを学びました。何回か聞き返すことによって対処しています。

また一度ホスト先のダンバーロータリークラブと連絡が取れなくなったことがありましたが、地区ロータリー財団委員長 アドバイザーの伊藤様のご助力があり、コミュニケーションをとることができました。

#### 4. 今後の課題、目標

言語に関する目標はどの国の人ともスムーズにコミュニケーションをとれるようにすること。また、私の表現力の幅を広げることです。今まで観たことなかったジャンルの動画や、小説を読むなどして培っていかうと思っています。1月中にこちらで買った小説を読もうと思っています。

今後の課題ですが、修士論文のテーマを決めることです。日本と違い指導教員との距離感が遠いので、自分で選んで自分で進めなければなりません。興味深いテーマが多く、どれにしようか迷っています。テーマによって二学期に取る授業も変わっていくので指導教員や授業の先生方と相談している最中です。